

学校と地域との連携における コーディネート

～安芸高田市の問題点と今後の方向性～

安芸高田市教育委員会事務局 生涯学習課
安芸高田市民文化センター 若狭 孝祐

目次

■はじめに	(p. 2)
■安芸高田市の状況	(p. 3)
■地域による学校支援事業	(p. 4-5)
■先進事例	(p. 6)
■小中学校の地域連携の現状調査	(p. 7)
■調査結果	(p. 8-11)
■問題点解決のためには	(p. 12)
■組織イメージ図	(p. 13)
■参考文献	(p. 14)

はじめに

○テーマ設定の理由

- ・地域に開かれた学校
 - ・地域で子どもを育てる
- 本本当に、そう
なっている
- ・学校と地域との精神的な距離か？
 - ・学校の思いと地域の思い

・学校には豊富な可能性

- ・地域のシニア世代などの知識や技術を活かす
- ・地域の縦のつながり、コミュニティの活性化
- ・子どもたちの社会性を養い、体験できる場

→ もっとうまい方法があるのでは？

2

安芸高田市の状況



- ・人口 31,424人 (H25.1月末現在)
- ・世帯数 13,180世帯 (同上)
- ・高齢化率 34.96% (同上)
- ・市内小学校数 13校
- ・市内中学校数 6校
- ・6町が合併して9年
- ・地域振興会組織の活動が活発

3

地域による学校支援事業

● 学校支援地域本部事業

学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることが目的。

地域の協力を組織的なものとし、学校の求めと地域の力を組み合わせ、より効果的に子どもを支援し、体験活動などを協力して実施する。

地域教育協議会（学校、ボランティア代表、評議員、地域代表、PTA代表、地域コーディネーター等）により現状・課題・可能性を話し合う。

地域コーディネーターは、学校と学校支援ボランティアとの調整役。

4

地域による学校支援事業

● コミュニティ・スクール

（学校運営協議会制度）

学校運営協議会（学校、教育委員会、保護者、地域代表等）を設立し、教育委員会から任命された委員は、一定の権限と責任を持つ。

- ・ 校長の作成する学校運営の基本方針を承認。
- ・ 学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べられる。
- ・ 教職員の任用に関して、教育委員会に意見が述べられる。

5

先進事例

- 宮城県仙台市（学校支援地域本部事業）
 - ・仙台市独自の「スーパーバイザー」
 - ・地域コーディネーターの育成
 - ・学校支援地域本部と市教委との連絡調整
- 栃木県宇都宮市（学校支援地域本部事業）
 - ・魅力ある学校づくり地域協議会全校設置、地域コーディネーターの配置促進
 - ・小中一貫教育全市実施と、その土台となる、「地域はみんなの学校」をめざす地域学校園設置の全市実施（一体的な推進）

6

小中学校の地域連携の現状調査

- 聞き取り調査
 - ・小学校教頭（5校／13校中）
 - ・中学校教頭（2校／6校中）
 - ・その他（学校教育推進室、教育委員等4名）
- 調査内容
 - ・地域連携の内容、方法
 - ・学校側、地域側の問題点
 - ・家庭、社会的な問題点

7

調査結果

○地域連携の内容、方法

- ・地域から学校へ
 - ・郷土理解学習（劇、神楽、太鼓、田楽等）
 - ・郷土理解学習（校外での特産物栽培等）
 - ・芸術活動（合唱、金管楽器、絵画指導等）
 - ・伝統文化活動（踊り、茶、陶芸、書等）
 - ・その他（自然学習、国際理解、科学実験等）
- ・学校から地域へ
 - ・地元の祭りや文化祭、敬老行事への参加
 - ・交流活動（一人暮らし高齢者への手紙等）

8

調査結果

○学校側の問題点

- ・地域や人を知らない
 - ・広域人事、管理職人事サイクル3年
 - ・学校の都合と地域の都合とが合わない
- ・教員の資質
 - ・学校が世間に目を向ける必要性
 - ・学習の材料探し、コーディネータ力の向上
 - ・地域に出向く癖が付いていない
- ・新課程移行に伴う総合的な学習の時間数減
- ・土日イベント等での教員の負担増
- ・年間計画にない急な行事は、対応が難しい

9

調査結果

○地域側の問題点

- ・地域の対応が統一されていない
 - ・組織的対応、個人的対応
 - ・地域内が把握できていないことがある
- ・講師としての資質
 - ・主義、主張が異なることがある
 - ・わかりやすく話せる人ばかりではない
 - ・語り部の高齢化
- ・子どもに興味がない
 - ・子どもを知らない、子どもも大人を知らない
 - ・子どもをお客さん扱いする

10

調査結果

○家庭の問題点

- ・親の問題
 - ・親が地域に出てこない
 - ・学校に任せきり
 - ・子どもを地域に出そうとしない
- ・子どもの問題
 - ・ゲーム等、家の中で遊び外に出ない
 - ・宿題、スポ少、塾、習い事で土日も忙しい

○社会的な問題点

- ・地域の子どもになっていない、会わない
 - ・少子化、子ども会数・行事の減少

11

問題点解決のためには

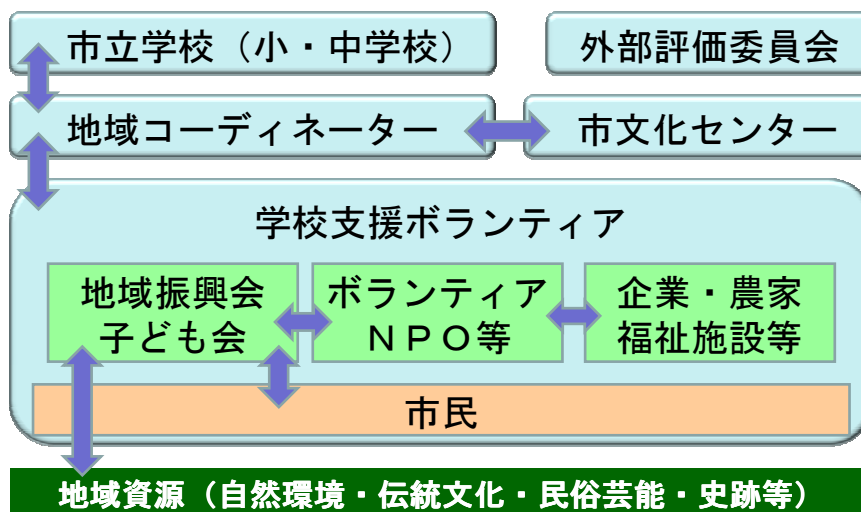
○結論

- ・ 人の問題（根本的な土台）
 - ・ 学校と地域との信頼関係がお互いに必要
 - ・ コーディネート＝信頼関係の構築
- ・ 組織の必要性（学校運営協議会等）
 - ・ 学校（校長、教頭、担当者等）
 - ・ 保護者代表
 - ・ 地域代表（自治組織、企業、ボランティア）
- ・ コーディネーターの必要性
 - ・ 学校、地域、保護者組織それぞれに必要
 - ・ 地域の学習、異世代交流、シニア間交流の場
 - ・ 知の循環型社会という観点（Win - Win）

12

組織イメージ図

○学校地域共育協議会（案）



13

参考文献

- ・ 仙台市の学校支援地域本部事業の概要
（仙台市教育委員会確かな学力育成室 編）
- ・ 地域との連携による学校運営の充実
“地域はみんなの学校”を目指して
（宇都宮市教育委員会教育企画課 編）
- ・ コミュニティ・スクール（文部科学省 編）
- ・ 教育要覧（安芸高田市教育委員会 編）